一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会

かけはし

2015
92
NO.

Contents

特集 認知症ケアの実践 ―― 2~3
研修会報告 ―― 4
ブロック通信・部会・委員会通信 ―― 5
会員紹介 ―― 6~7
会員・事務局からのお知らせ ―― 8

水仙
(南あわじ市)

一重咲きの野生のニホンスイセンが咲き誇り、付近一帯は甘くて優しい香りに包まれます。

かけはし
●発行所／(一社)兵庫県老人福祉事業協会 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 TEL.078(291)6822 FAX.078(291)6811 http://www.hyogo-kenrouukyo.jp/
●発行責任者／石田 文徳 ●発行日／平成27年12月15日 第92号

会員・事務局からのお知らせ

就職フェア開催通知

この度、尼崎市 あまがさきニューアルカイックホールオクトにおいて、老人福祉事業就職フェアIN阪神を開催いたします。

また、就職フェア終了後に「老人福祉施設見学バスツアーIN阪神」もあわせて開催します。

福祉・介護の仕事に興味をもたれている方、福祉を学ばれている学生の皆さん！将来性・やりがいのある老人福祉事業・介護の現場で働いてみませんか？

老人福祉事業就職フェアIN阪神

開催日 平成28年3月12日(土)12:30~17:00
開催場所 あまがさきニューアルカイックホールオクト
本会会員事業所40法人が面談ブースを出展！
介護現場の先輩からのプレゼンテーションも実施！

老人福祉施設見学バスツアーIN阪神

開催日
平成28年3月15日(火)西宮コース
平成28年3月16日(水)宝塚・三田コース
平成28年3月17日(木)芦屋コース
平成28年3月18日(金)伊丹・川西コース

※いずれも参加費無料　※詳細は本会ホームページにチラシを掲載しておりますのでご覧ください。

行事予定

本会研修事業

1月18日(月)	デイ部会管理者会・管理者研修会
1月20日(水)	老人福祉事業就職フェアIN阪神事前研修会
1月22日(金)	デイ部会第2回職員研修会
2月 4日(木) ~ 5日(金)	施設長研修会
2月16日(火)	軽費・ケアハウス部会施設長研修会
2月20日(土)	終末期ケア普及フォーラム
2月22日(月)	養護部会施設長研修会
2月26日(金)	地域サポート型特養情報交換会
	地域サポート型特養第2回研修会
3月 8日(火)	地域サポート型特養第3回専門相談会
3月15日(火)	地域サポート型特養第4回専門相談会
3月23日(水)	総会

他団体研修事業

2月18日(木) ~19日(金)	近畿老人福祉施設協議会 施設長研修会(和歌山)

終末期ケア普及フォーラム

終末期をご本人がその人らしく、また家族やケアする方々がそれをどのように支えていくのかについて共に考える機会として、基調講演に医療法人社団裕和会理事長 長尾クリニック院長 長尾和宏氏を迎え、後半は、生活の場である老人福祉事業所からの看取りの考え方や取り組みについて実践報告します。

開催日 平成28年2月20日(土)13:00~16:30
開催場所 ホテルクラウンパレス神戸 5F MIDTOWN
定員 300名　参加費 無料
※詳細は本会ホームページにチラシを掲載しておりますのでご覧ください。

県老協加入施設数

H27.12.15現在

		特養	養護	軽費	ケアハウス	デイサービス	計
会員	阪神	57	6	0	21	72	**157**
	東播磨	50	6	1	20	65	**142**
	姫路	35	3	0	8	34	**80**
	西播磨	30	6	0	3	42	**81**
	但馬	23	3	0	6	41	**73**
	丹波	11	4	0	3	15	**33**
	淡路	18	4	0	2	14	**38**
	計	**224**	**32**	**1**	**63**	**283**	**604**

※ 賛助会員 1事業所(内訳:団体)

訃報

兵庫県老人福祉事業協会
前会長 小椎尾 隆 氏(社会福祉法人 三相園福祉会 理事長)が、平成27年9月11日ご逝去されました。
ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

今年の冬は、寒暖の差が激しい日が続いております。感染症(インフルエンザ、ノロウィルス等)への予防、対応に留意する季節到来。事業所の利用者のみなさんはもちろん、スタッフの皆さまも体調にはくれぐれもご留意のうえ、良い新年をお迎えください。

会員紹介

松風園

養護老人ホーム／阪神ブロック

社会福祉法人伊丹市社会福祉事業団
松風園

施設長名 池内 玲子　　定員数 50名
住所 〒664-0015 兵庫県伊丹市昆陽池1丁目105番地
TEL 072-781-2900　FAX 072-781-7088
home@jigyoudan-itami-hyogo.jp
併設事業 特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

養護老人ホーム松風園は、渡り鳥の飛来する伊丹市昆陽池公園の西にあります。併設する特別養護老人ホーム桃寿園とともに地域のニーズに応える施設として歩んでまいりました。松風園は、平成18年10月に特定施設入居者生活介護事業所の指定を取得してから、現在50名の定員のうち約40名の方がその対象となられています。また今年度市内9か所に分散設置されました地域包括支援センターのうち伊丹市社会福祉事業団が4か所を受け持ち、その一つが当園にあり地域の総合相談窓口としての役割を担っております。

当事業団では「豊かな明日へあなたとともに歩みます」という経営理念を掲げ、個人の尊厳を守ることを念頭におき、介護予防や自立支援をご利用者様や地域の方々とともに進めております。

地域で生活する施設として、日頃から地元地域の方々とのおつきあいがあり、そのおかげで、外出中歩き疲れてすわりこんでおられても地域の方々から丁寧に園へお知らせくださいます。

この恵まれた環境のもと、これからも一つ大きな屋根の下で、地域の一員として家庭と同じような毎日を笑顔でゆったりと生活していただけるよう職員一同努めてまいります。

デイサービスいそうの花

通所介護・予防通所介護／但馬ブロック

社会福祉法人みかたこぶしの里
デイサービスいそうの花

施設長名 小谷 勝義　　定員数 20名
住所 〒667-1366 兵庫県美方郡香美町村岡区川会13番地1
TEL 0796-95-0393　FAX 0796-99-5364
hana-sora@oboe.ocn.ne.jp
併設事業 認知症対応型共同生活介護

デイサービスいそうの花は、平成16年4月に開設し、今年で12年目を迎えました。この間、当法人の基本理念である、「ノーマライゼーションの確立」「人権の保障」「生きがいの創造」この3つの基本理念をケアの目標、判断基準として取り組んできました。

そして、開設当初より「利用者一人ひとりを大切な人として関わる」という考えのもと、利用者や家族・関係者に満足していただけるサービスの提供を目指しています。

具体的には、花見や紅葉見物などの外出、花植えやおやつ作り、地域交流など、楽しみや喜びを持つことに重点を置き、一回一回の利用に新しい発見ができるよう努めています。

また、「介護を受けながら自宅で暮らしたい」とする利用者の希望にも応えられるよう、機能訓練を実施し、生活機能の維持・向上のための訓練を効果的に行うことで、「その人らしく生きる」ことを支援していきたいと考えています。

今後も利用者の思いや願いが適えられるよう、心に寄り添える関わりを目指して、職員一同努力していきたいと思います。

認知症ケ

生活の場である介護老人福祉施設では、利用者の尊厳を保持
今回の特集では「認知症ケアの実践」に焦点をあて、11月1日に取材し、介護の現場での認知症ケアの取り組みをまとめました

特別養護老人ホーム たちばな苑

洲本市

山岡施設長、中村主任生活相談員、清水主任介護職員、堀井介護支援専門員、森下介護副主任
川西介護副主任、井本管理栄養士、大田看護師
平成27年10月27日

たちばな苑は、平成11年4月1日に開設され、従来型の特養で、現在定員は長期入所60名、ショートステイ10名です。常勤換算にすると、利用者約2.2名に対して職員1名配置されています。特色として、嘱託医（内科・皮膚科・精神科）、理学療法士、歯科衛生士、言語聴覚士などの専門スタッフが非常勤で配置されており、専門家の指導・助言を受けられる体制が整備されています。

認知症の周辺症状である収集行動への対応と取り組みについて、事例対象者Tさんにスポットをあてた認知症ケアの実践について主任介護職員 清水将之さんから説明がありました。

【事例対象者の概要】
この事例の入居者はTさん、83歳の女性で、アルツハイマー型認知症・高血圧症の既往があり、要介護度3、認知症自立度：Ⅲa、障害高齢者自立度：A1の方です。
認知症の周辺症状として、トイレットペーパー、食器、おしぼりの共用の物を収集され、居室に持ち帰ることが多くみられるため、他の入居者から収集行動に対して注意を受け、口論やトラブルが多くみられる、また不穏時には、職員に対しても叩く・蹴るなどの行為があり、周囲の入居者との孤立が懸念される方でした。

【認知症ケア実践にかかる動機】
「Tさんが施設で穏やかに過ごしてもらうには？」また「周囲の入居者との良好な関係性を構築するためには？」という課題があがりました。

【取り組みの着眼点と実践　その効果】
まずTさんの抱える状態について多角的にアセスメントを実施。①精神科医に相談し、周辺症状の対応の仕方についての助言を頂く。②地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート（DASC）、長谷川式簡易知能評価スケール、アルツハイマー型認知症の重症度評価（FAST）など科学的なアセスメントシートを使用。③Tさんの行動を記録した専用ノートを作り記録の充実を図り、申し送りの徹底にて情報の共有を図る。
その後、嘱託医、施設長、生活相談員、介護支援専門員、介護職員、看護職員、栄養士、家族を交えカンファレンスを実施し、対応方法を協議し、「本人持ちの食器を用意し、居室へ持って帰ってもいい環境を作る。トイレットペーパーなどの補充を家族に依頼する。マニュアルを作成し、ケアの統一を図る。」という方針に決まりました。
上記の内容を実践した結果、食器を居室へ持ち帰ることにより聞かれていた苦情は、本人持ちの食器の使用、職員による事前の説明で他の入居者からの理解を得て改善、また居室へ持って行ったトイレットペーパーについてもご家族の協力で補充していることを他の入居者に説明することでトラブルの回避に繋がり、Tさんのストレスの軽減が図れ、フロアで過ごす時間が増え、Tさんの表情も穏やかになられていました。家族からも以前は施設にご迷惑をお掛けしたとの意見を頂いていましたが、Tさんの最近の様子を見られると、「安心しました、表情が変わった。」と喜びの声を頂きました。

【スタッフの変化（効果）】
職員側も、認知症の周辺症状の対応を単なる問題行動処理としてではなく、相手の立場に立った視点で考えることの重要性を再確認できました。

【今、抱える課題】
残された課題としては、今までの他の利用者とのトラブルの影響で、人間関係がぎくしゃくしており、良好な人間関係に至っていない状況にあり、今後もTさんの思いに寄り添ったケアを継続していきたいとのことでした。

【まとめ】
取材を通して、精神科医などの専門家の助言や指導を受け生活環境を見直したこと、カンファレンスで本人の食器やトイレットペーパーの補充などご家族の協力を得られたこと、記録の充実、情報の共有を図ることで、Tさんに寄り添うケアが実施できたのではないかと思います。
毎日朝の申し送り時にカンファレンスの開催が職員に定着されている点、業務改善委員会、認知症ケア委員会、食事、排せつ等各種援助チームにて随時マニュアルの見直しが行われている点など、施設全体でケアの向上に取り組んでいることを実感しました。

編集委員 湯本 健作

研修会報告

介護職員等による終末期ケア対応向上研修会（神戸会場）

平成27年8月31日開催
場所 兵庫県福祉センター

生活の場である老人福祉施設において人生の最期を迎える時期への支援として、急変しても著明な症状に出にくい高齢者の方の看取り期を判断することは困難です。活動性・食事摂取量・体重等の減少や、医学的な数値も指標となりますが、同様に日々の観察からくる気づきも大きな判断要素になります。講師 田中涼子氏は「看取り介護」を行う上で、介護・看護・栄養士夫々が少しの変化にも気づき、その情報を多職種で共有できるチームケアの重要性を強調され、講義に引用された事例からも、家族も交えた多職種連携協働の必要性を強く感じました。

施設には幅広い年齢層の方が入所されており、そのお一人お一人に生きてこられた歴史（生活歴）があります。日々の生活を満足できるものにし、最期の日まで尊厳を持って生ききるのを支える為には入所者の生活歴を知ることがとても大切です。職員の日々の関わりやご本人との会話、食事習慣等、夫々の専門職が気付き情報収集することがケアに反映されます。日常生活の延長線上に看取りはあり、そして施設に入所された日から看取りは始まるということです。本人に説明・同意を求める今の時代にあって、ご本人の意思決定支援をしていくことも老人福祉施設における課題であるとご講義いただきました。

後半は「よりよい看取りケアを実践するために、どういう支援が必要か」という内容でのグループワークでした。まずは入所者ご本人を知ろうとすることから始まり、夫々の専門職が自分達の立ち位置でチームとして看取りケアに関わっているということを再確認できた研修でした。

編集委員 川﨑 智子

地域サポート型特養普及推進事業第1回専門相談会

平成27年9月14日
場所 兵庫県福祉センター

特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター代表 沖田裕子氏を講師に迎え、「認知症の方をサポートする者として大切にしたいこと」と題した相談会に参加しました。

この相談会では、地域で暮らす認知症高齢者に焦点をおき、「認知症とは何か」という基礎的な知識から、沖田氏がこれまで経験された多くの認知症高齢者の相談・援助の事例を通して、地域サポート型特養のLSA（生活援助員）等が地域の認知症高齢者を援助する際の注意点などを話されました。

後半、地域サポート型特養等で相談援助に関わる参加者同士のディスカッションも行われました。「活動の中で困ること」を主題においたディスカッションでは、「介護員や相談員とLSA業務を兼任しているので、中々活動の時間が取れない」「事業が開始して日が浅く、前例が少ない為、判断に困る場面が多い」といった声があがり、事業への戸惑いの声も聞かれました。

地域サポート型特養という事業はまだ歴史が浅く、それ故に多くの展望と戸惑いが共存していると思いました。地域サポート型特養の利用者だけでなく、その家族や近隣の地域の方々と信頼関係を構築すること、施設と地域への架け橋となることが地域サポート型特養には求められているのではないかと感じました。

編集委員 小川 望

ブロック通信

阪神ブロック

- 平成27年6月26日に、総会及び介護報酬勉強会「平成27年度介護報酬改定の影響とその後の戦略」を宝塚栄光園施設長 赤井 祐氏を講師に迎え開催。9月25日には第2回施設長会「マイナンバー制度勉強会」及び「最新設備を誇る施設見学会：第2シルバーコースト甲子園」を開催しました。マイナンバー制度勉強会では、上田社労士事務所代表 上田 篤氏からマイナンバー制度の基本方針や就業規則の雛形の配布など示していただき、すぐに活用できる有意義な研修となりました。12月4日に第3回施設長会「ストレスチェック制度について」を管理者や導入手順などについて独立行政法人労働者健康福祉機構 兵庫県産業保健総合支援センター メンタルヘルス促進対策員 笹尾智隆氏より講演いただきました。
- 平成28年3月7日　第4回施設長会及び研修会を開催予定です。

東播磨ブロック

平成27年度研修会ならびに12月以降の予定を以下のとおりお知らせします。

- 6月25日(木)「"排泄ケアで変わる"なるほどなっとく認知症ケア」
  講師：生活とリハビリ研究所　三好春樹氏　参加者：119名
- 9月8日(火)「高齢者施設における"転倒事故は減らせる！"」
  講師：メイアイヘルプユー　鳥海房枝氏　参加者：147名
- 10月7日(水)「する人される人、どちらも幸せになる介助術」
  講師：一般社団法人白新会 リハビリテーション研究所Natural being 代表理事　福辺節子氏　参加者：123名
- 12月10日（木）東播磨ブロック老人福祉事業協会　ケアプラン研修会
- 1月21日（木）講師：ライフケア　髙口光子氏

姫路ブロック

平成27年度研修会を以下のとおり開催しました。

- 4月18日「ホスピタリティーについて考える」
- 4月22日「介護現場にロボットを導入する意義」
- 7月30日「介護予防について」
- 8月10日「権利擁護について」
- 10月17日「ICFの概念と包括的自立支援プログラム」
- 10月22日「納得できる看取りのために」

西播磨ブロック

- 本会介護の日イベント（11月1日開催）で、（特養）こすもす倶楽部より『軽度認知症高齢者の苦悩と葛藤』をテーマとする実践発表がありました。また恒例のボーリング大会（11月13日開催）は、和気藹々とする中で職員間の交流・親睦を深めました。
  厳しい老人福祉を取り巻く状況の中、今後も更なる当該ブロック施設間の連携・連帯強化を願わずにはいられません。

但馬ブロック

- 10月8日、地域ふれあいの家「いきいきサロン八鹿」にて介護する者同士が話し合い、お茶を飲みながらゆっくりと過ごす認知症カフェ「ここあん」を開催致しました。

丹波ブロック

- 11月12日、柏原住民センターで、ケアプラン研修会（事例演習編）を開催しました。
  ケアプラン作成の理念、基本と留意点についての講義、共通事例演習を通じて包括的自立支援プログラムにおける基礎を学びました。

淡路ブロック

- 8月28日、洲本市文化体育館にて看護、介護職員研修を開催しました。洲本健康福祉事務所保健師峰美冬氏による「結核のウソ？ホント！！」の講演と兵庫県立淡路医療センター 感染管理認定看護師 正司貴美子氏より「高齢者施設における感染症対策」と題し講演頂きました。
- 10月2日、淡路水産センターにて給食関係職員研修会を開催しました。特別養護老人ホームしゃんぐりら 管理栄養士 増田邦子氏による講演「おいしさに配慮した嚥下調整食の工夫～経口維持のための食べる機能にあわせた食形態～」と洲本健康福祉事務所 健康管理課 田中晴菜氏により情報提供を頂きました。

部会・委員会通信

◎ サービス評価事業

平成27年度サービス評価事業を実施しています。（本年度評価13施設、再評価2施設）

◎ 調査研究委員会

平成27～28年度の2ヵ年において「社会福祉法人の社会貢献事業の展望」をテーマに、実態調査並びにヒアリング調査をまとめた報告書を発行する予定です。調査等へのご協力をお願いいたします。

◎ ケアプランリーダー養成・派遣事業委員会

10月～12月にかけて各ブロックにおいてケアプラン研修会を開催しました。また10月に実施した「ケアプラン作成について」実態調査回答へのご協力ありがとうございました。

◎ 養護部会

第2回職員研修会を11月25日に開催しました。施設長研修会を平成28年2月22日に予定しておりますので、ご参加をお待ちいたします。

◎ デイ部会

1月18日に臨時デイ部会管理者会と管理者研修会を「介護現場における人材育成にむけての管理者の視点」をテーマにエイデル研究所 経営支援部長 小林雄二郎氏を、また1月22日に「リスクマネジメント～介護事故やいつ起こりうるかもしれない大災害に備えて～」と題し、びわこ学院大学 教授烏野猛氏をお迎えし第2回職員研修会を開催いたします。

◎ 介護保険推進事業

介護報酬改定の影響調査を実施・分析したものをホームページに掲載しております。又、本調査に基づき厚生労働省と意見交換を行いました。（詳細は、後日発行のかけはし号外に掲載予定）

◎ 介護人材確保推進委員会

平成28年3月12日（土）12：30～17：00　尼崎市アルカイックホールオクトにおいて、「老人福祉事業就職フェアIN阪神」を、3月15～18日に施設見学バスツアーIN阪神を開催します。

◎ 編集委員会

"こんな取組みはじめました"コーナーでは会員施設の取り組みをご紹介しています。情報をお寄せください。かけはし93号発行は3月を予定しています。

◎ 研修委員会

平成28年2月4日～5日神戸メリケンパークオリエンタルホテルにて施設長研修会を、2月20日クラウンパレス神戸にて終末期ケア普及フォーラムを開催します。

◎ 軽費・ケアハウス部会

平成28年2月16日に、働きやすい職場環境づくりをテーマに正田佐与承認マネジメント協会 代表 正田氏を迎え軽費・ケアハウス部会施設長研修会を開催します。

◎ 地域サポート型特養普及推進事業

2月26日に地域サポート型特養情報交換会（午前）、第2回研修会（午後）『治さなくてよい認知症～薬より張り合いを～』をテーマに日本医科歯科大学 精神神経科 上田 諭氏を迎え開催します。3月8日・15日に第3・4回専門相談会を植田寿之氏をお迎えし、「職場環境と整えるスーパービジョン」をテーマに開催します。

アの実践

し、症状に応じた適切なサービス提供を日々検討し実践しています。
開催 本会「介護の日イベント」において実践報告をいただいた2施設
た。

特別養護老人ホーム こすもす倶楽部

相生市

福島施設長、神尾ユニットリーダー、
大前介護職員
平成27年10月26日

こすもす倶楽部は、兵庫県南西部に位置し、山麓を流れる緩やかな風と相生湾を一望できる風光明媚な環境に恵まれた施設です。

平成16年4月に兵庫県初のユニット型特養としてオープンし、平成26年度に特養の定員を70床に増床、ショート10床のほか、デイサービス、ヘルパーステーション、在宅介護支援センター、事業所内小規模保育所、グループホーム等を運営しています。

軽度認知症高齢者との関わりをテーマに、事例対象者Aさんにスポットをあてた認知症ケアの実践について介護職員大前明子さんから説明がありました。

【事例対象者の概要】

Aさんは87歳の女性、要介護度2、既往歴は脳梗塞、2型糖尿病を患っています。日常生活動作はほぼ自立、排泄は稀に失敗がありますが本人の自尊心に配慮し対応しています。また認知症及びうつ病評価テストでは軽度の認知症と合わせうつ病の傾向が高い状態です。入所に至った経緯は、認知症が進行し、ご家族様のご負担が大きくなった故によります。ロングショートを経て、引き続き慣れた環境を維持するため特養入居の運びとなりました。

【認知症ケア実践にかかる動機】

Aさんは周りの利用者と良好な関係が構築できず攻撃的な言動がみられていました。また特定のスタッフに対し、入浴、服薬時等に強い口調で拒否反応を示し、上手くいかない場面が多々ありました。改めて特養入居の適応性、Aさんの心情と選択肢、そしてADL改善のため総合的にモニタリングで精査しました。Aさんは外出を好むところがあります。この機会を得られやすいグループホームでのメリット等を検討しました。

【取り組みの着眼点と実践　その効果】

初めに行動心理症状の原因分析を行うため、情報を収集し、Aさんの発語を細かく拾っていきました。生活記録、申し送りノートなど、職員間による情報・課題の共有とケアの統一を重きにしてきました。Aさんの発語に「脳梗塞で失神した時あのままス～ッと逝きたかった。」「人生の幕引きがここか。」など死の発語が多く見られました。分析した結果、地域やご家族様との関係の希薄化や自己有用感を得る機会が少ないのではと考えました。これらよりAさんへの取り組みは、ご家族様との交流、過去の生活を振り返る回想法の活用、主役になれる機会の提供などです。Aさんは過去に華道・茶道の経験があり、これを活かしレクリエーションで主導的な役割を担っています。また孫様との連絡ツールの開拓などにより生き生きとした一面がみられるようになってきました。

【スタッフの変化（効果）】

カンファレンス、24時間シートの活用など、スタッフ間で密な情報の共有を大切にしています。特養は終の棲家でなく、認知症になってもその人らしい「自己選択」「自己決定」できることを支援することが重要です。同時にこの取り組みを通して、各職員の強い意識変化を感じています。

【今、抱える課題】

慣れによる「気づき」の減少がみられるため、適宜モニタリングを実施するなど、改めて初心に帰ることが大切であると考えています。発信のサインを見逃すことなく取り組むことが必要です。どんな時でも自己選択できる個別支援が重要です。同時に限られた時間や交替勤務制の中での継続的な支援が、私たちケアワーカーに与えられた使命として取り組んでいきたいと考えています。

【まとめ】

説明後に福島施設長より、『慣れの怖さを憂慮するとともに、経験知ではなく実践とともに裏付けされた学際（科学）的な「知識知」が重要であり、同時にこの仕事を続けて良かったと心に響く素敵な「エピソード」を後輩に語れる先輩になってほしい。これは『認知症ケアの連鎖』に繋がっていくはずです。』と主張された言葉が印象的でした。

この度の取材は、認知症ケアの実践にかかる人権擁護やエンパワーメント、情報の共有、尊厳を支えるケアの展開、またプライバシーを遵守し「その人らしさを支える」ために対象者に寄り添ったケアの実践にご尽力されていることに深く感銘した取材でした。

編集委員 武内 尚明

朝陽ケ丘荘

特別養護老人ホーム／西播磨ブロック

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
朝陽ケ丘荘

施設長名 奥本 雄美　定員数 110名
住所 〒679-5331 佐用郡佐用町平福138-1
TEL (0790)83-2008　FAX (0790)83-2035
info_asahi@hwc.or.jp
併設事業 短期入所生活介護、障害者短期入所、居宅介護支援事業、認知症対応型通所介護

特別養護老人ホーム朝陽ケ丘荘は、因幡街道の宿場町として栄えた風情溢れる佐用町平福の一角に位置し、連郭式山城として有名な利神城から臨む緑深い自然に囲まれた静かな環境の中にあります。

昭和47年に佐用町佐用地区で開設し、平成11年に現在の佐用町平福地区に移転し、約16年が経過しています。

朝陽ケ丘荘では、「一人ひとりの生活を豊かに、その人らしさを応援したい」をテーマに入居者に寄り添った利用者本位の介護、支援を提供しています。特に利用者やその家族から実現したい三つの希望をお聞きし、実現することで、「夢を叶えるプロジェクト」として、その人らしい生きがいづくりも取り組みの一つです。

地域に対する貢献活動としては、特に「認知症」に対する取り組みを強化し、「認知症サポーター」の養成や、「認知症カフェ（オレンジカフェひだまり）」の開催運営を行い、地域から大変好評を得ています。

おかの花

特別養護老人ホーム／丹波ブロック

三相園福祉会
特別養護老人ホームおかの花

施設長名 小椎尾 竹信　定員数 88名
住所 〒669-3401 兵庫県丹波市春日町山田170
TEL 0795-74-1700　FAX 0795-74-1708
http://okanohana.jp/
併設事業 短期入所生活介護、通所介護、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業、ケアハウス

特別養護老人ホームおかの花は、平成8年5月（阪神淡路大震災の次の年）に開設されました。以降その10年後には北棟ユニット棟を増床するなど10年を周期に大きな事業を展開しており、今年度は三相園の移転改築に至っています。

開設以来60年が過ぎましたが、黒井の地を原点に老人福祉一筋に地域に根付いた事業を展開してきました。この度三相園が移転してくることで拠点が、現在おかの花のある山田に移ってきますが、創設者の思いである、愛と協調の精神（思いやりと助け合いの精神で事にあたる）、相忍（そうにん）＝「共に忍び」、相念（そうねん）＝「共に念じ」、相楽（そうらく）＝「苦楽を共に」をこれからも大切に受け継いでいき、職員一同、ご利用者様の安心・安全なその人らしい生活を、同じ目線で共に考え支援させていただきたいと思っています。